

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	0 理念・目的 (研究科)《全学的な視点》	
中項目		
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。	
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応	
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。	
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 関西学院大学が設立された建学の理念・ミッションを再確認し、その今日的展開として「ミッションステートメント」を宣言し、本学の教育・研究などあらゆる活動の指針とする。	→「ミッションステートメント」の策定及び宣言	A	A			
2. 本学はその理念とするキリスト教主義にもとづいた特色ある教育研究をもって社会に寄与するために、「目指す大学像」を掲げ、その実現に向けた実施計画を策定する。	→「目指す大学像」にむけた実施計画の策定	A	A			
3. 「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」を学内において共有し、学外に公表する。また、その浸透・認知のために具体的施策を実施する。	→①学生及び教職員における「ミッションステートメント」、「目指す大学像」の浸透度 ②卒業生における「ミッションステートメント」等の認知度	B	B			
4. 建学の理念等の学内外における浸透度・認知度を測定する体制を整備する。	→ミッションステートメント等の浸透度、認知度を測定する手段の整備と調査の実施	D	D			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

★	小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない (理念・目的) 新基本構想(2008年12月承認)において策定された「ミッションステートメント」及び「目指す大学像」は、次の通りである。 (1)ミッションステートメント：関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探求の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、「スクールモットー”Mastery for Service”[「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕えるために自らを鍛える関学人のあり方を示す]を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命とする。 (2)目指す大学像：関西学院大学は、キリスト教主義に基づく、「垣根なき学びと探求の共同体」をめざし、全人的な教育と創造的な研究により有能にして心温かい世界市民を社会に送り出すことを使命とする。《目指す大学像設定の趣旨》1929年、新設の上ヶ原キャンパスに立った第4代院長C. J. L. ベーツは、果樹園へつらなる開放的なキャンパスを、「We have no fence」と評した。当時のキャンパスには、教員と学生、大学と社会、国境という垣根を意識させない「学びの探求の共同体(ラーニングコミュニティ)」が存在し、新しい社会を創造する気概にあふれていた。現在、世界は、グローバル化やICTの急進に伴い、地球規模の相互依存が深まる一方、人種・文化・宗教・民族・国家の間にある《垣根》により現代社会特有の摩擦・軋轢が生まれている。こうした現代社会にあって関西学院大学は、高い専門能力と深い人間理解をあわせもち、他者に対する共感をもって人類社会の幸福に貢献する意思と能力をもつ人物を養成するために、キリスト教主義に基づき、学生・教職員すべてが主体的に学び合う《垣根なきラーニング・コミュニティ》の実現を目指す。 (現状説明) ミッションステートメントとは、関西学院の社会における存在意義や使命を示したものである。それ故、キリスト教主義に基づく行動指針とスクールモットーを体現できる人材の育成をうたった「ミッションステートメント」と「目指す大学像」は、大学の理念・目的としては、適切なものだと考えられる。また、日本の社会の中において、差別なき社会を目指すために、キリスト教主義を主体とした教育をすることは、非常に有意義であり個性的だと考えられる。 また、関西学院大学の学生が、関西学院のめざす人間像である「”Mastery for Service”を体現する世界市民」となるために、卒業時に学部の区別なく共通して身につけておくべき知識・能力を「KG学士力」として提示している。
	小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない (現状説明) 「ミッションステートメント」および「目指す大学像」は、2009年4月に配布されたパンフレット「関西学院 新基本構想」において、広く世間に公表されている。また、2009年9月の創立記念式典において、大学だけでなく、関西学院全体として、その内容の再確認が行われた。
	小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (現状説明) 「「ミッションステートメント」および「目指す大学像」の内容についての検証であるが、当初、その内容の浸透や認知状況を測定するためのアンケート調査を行い、結果を公表する予定であった。しかし、調査の対象をどうするかやその対象ごとに調査項目をどうするかということに議論が集中し、結果として調査項目を確立できず、アンケート調査自体も行われなかった。
	その他	

《評価指標データ》

- 本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
- 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
- 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
- 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
- 在学生のうち「この大学で人生の一時を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
- 理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
- 理念の周知について(2)ー総合コース「『関学』学」の履修者数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。	
★	小項目0.0.1 学院のホームページ上に「ミッションステートメント」に関する紹介を掲載することで、これまで以上に多数の人々にその内容が理解され、共有化されている。
	小項目0.0.2 2010年4月に「ミッションステートメント」の内容が記載された名刺サイズの印刷物を学生及び関係者に配布したが、たいへん好評であったためその後増刷している。
	小項目0.0.3
	その他
《次年度に向けた方策(1)》伸ばさせるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。	
★	小項目0.0.1 学院のもつ多様性に基づく「学びと探求の共同体」を構築するために「インクルーシブ・コミュニティ(包摂的な共同体)促進委員会」を設置した。この委員会によって各キャンパスの各部署でミッション・ステートメント促進に取り組む体制の準備が整った。
	小項目0.0.2 学院史やスクール・モットーに関するベーツ元院長の文書を含む『KG.ハンドブック(仮称)』の刊行を準備している。
	小項目0.0.3
	その他

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項		注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。
小項目0.0.1		
小項目0.0.2		
★ 小項目0.0.3	アンケート調査における調査項目を早急に確立し、速やかに調査を行える体制を整える。	
その他		

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策		注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。
小項目0.0.1		
小項目0.0.2		
★ 小項目0.0.3		
その他		

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★ その他 (自由記述)	

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○アンケート調査は準備のうえ早期に実施することが求められますが、その際、大学の理念・目的が実際の教育活動の中にどのように取り入れられ、その成果として学生の身についたかが分かると有意義です。

【学内委員】

○0.0.3の理念・目的の適切性についての検証に向けて、具体的な活動が進められることを期待します。
 ○「学びと探求の共同体」の構築に向けて新たに設立された「インクルーシブコミュニティ促進委員会」はどのようなことをするのでしょうか。もう少し具体的な説明をお願いします。
 ○今日では、社会への公表方法としては、ホームページが重要であるので、ホームページに公表していることを、「効果の上がっている事項」よりも、「現状の説明」で述べておくべきではないでしょうか。
 ○「建学の理念等の学内外における浸透度・認知度を測定する体制を整備する。」という目標に対する施策が実行されていないにも関わらず、次年度に向けた改善方策に記述がありません。それが行われていない中で、何故「学院のホームページ上に「ミッションステートメント」に関する紹介を掲載することで、これまで以上に多数の人々にその内容が理解され、共有化されている。」と評価できるのでしょうか。
 ○小項目0.0.3の現状説明は2010年度の報告と変わっていません。効果が上がっている事項として、小項目0.0.2で「名刺サイズの印刷物が好評であった」と報告されていますが、裏付けとなる指標データが無い状態では、浸透度、認知度は推測もできません。また、「改善すべき事項」も2010年度と同じ記述内容です。2010年度も「改善方策」の記載がないままで改善されなかったわけですから、少なくとも2011年度の報告では「改善方策」について記述され、その方策に基づいて改善されることが期待されます。
 ○本項目は、適性に設定されていれば記述内容は全年度と同様のものが多くなることは理解できます。
 ○名刺サイズの印刷物の増刷、新たな印刷物の発行、促進委員会の設置、ホームページへの掲出など、各種施策が実施され進捗していることが伺えます。

○記述内容がほぼ同じであるので、昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。
 ・進捗評価は、目的達成を基準としての評価です。2つの目標に対して、1年間の進捗評価がAですので、現在の目標の次の目標を設定することが期待されます。1については、目標と指標の整合性がとれていないので、指標を変更することが望まれます。2については、計画の策定が目標となっていますので、次年度以降の目標を定めることが求められます。
 ・目標にもかかわらず課題とされているように、浸透度・認知度の測定方法や手段を早急に確立し実施されることを望みます。理念・使命
 ・目的の浸透には時間がかかりますが、浸透し認識されることで一層の価値が出てきますし、そのことが重要です。
 ・「学部の新設は関西学院の目指す理念をいっそう具体的なものにするための施策」と2008年度の自己点検・評価で示されています。2009年度に国際学部が新設されました。説明に加えられることが望まれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 「インクルーシブ・コミュニティ促進委員会」とは、ミッション展開推進委員会で、ダイバーシティ（多様性）を力とする「垣根なき共同体」をめざして「インクルーシブ・コミュニティ構築に向けて」という宣言文を策定した。これに基づき、文中に示されたインクルーシブ（包摂的な）共同体を創り上げていくための促進委員会を2010年11月に設置した。